

令和 2 年 6 月 24 日現在

機関番号：32414

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K04620

研究課題名(和文)国際バカロレアの公立高校への導入における枠組み形成—日中の比較から

研究課題名(英文)The formation of framework regarding the introduction of IBDP to Chinese public high school-Comparison with Japan

研究代表者

黄丹青(KO, Tansei)

目白大学・外国語学部・教授

研究者番号：10550692

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は国際バカロレアを導入する中国の公立高校を対象に、日本との比較を念頭に置きつつその導入枠組みの解明を目指したものであり、主に以下の結果を得ることができた。第1に、全容の把握である。IBに関する国の政策がない中、地方がそれぞれ独自の方法で模索してきたため、自国内でも整理されなかった導入タイプを分類し全体像を描いた。第2に、実地調査により、IB導入の急速な拡大は、地方の政策と社会的なニーズ、そして国際機関や人員を引き付ける要素が複雑に絡み合う結果であり、そのキーワードは市場化であると構造的に明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

国際バカロレアの導入がグローバルの恰好な例であるが、導入現状の把握や教育方法の融合と教員の在り方など実践的な次元、およびアイデンティティに関する研究が多い中、本研究は社会学的な視点から、導入の構造をはじめ描いた。それは国間、特にアジア地域での異同を比較する一つの土台となります。

また、研究成果を国内にとどまらず調査地や香港と台湾、そして韓国でも発表し、比較の意味を問いてみた。さらに、中国の調査団を受け入れることで大陸初の国際バカロレア教員養成の制度づくりの一助にもなった。

研究成果の概要(英文)：This study intends to clarify the mechanism of the introduction of International Baccarolarea into public high schools in China.The main research results are:1)paint the overall picture.We try to holistically understand and categorize how local schools take their own way in the absence of national policy on IB;2)conduct field survey.The outcome shows that the rapid expansion of IB schools is a result of the interaction among local policies,social needs and and the attraction for international institutions and their personnel.The keyword we can identify is Marketization.

研究分野：教育社会学

キーワード：国際バカロレア 現地公立高校 国際部 グローバル 市場化 教育エージェント 留学

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

21世紀に入ってから、グローバル化が一層進み、その影響が教育にも及んだ。国際バカロレアの世界各国への導入がその象徴的な現象であり、日本と中国も例外ではなかった。2010年代に入ってから、両国とも公立高校におけるディプロマ・プログラム (IBDP) の導入が課題となり、現存教育システムとの調和や教授言語、教員など共通の問題に直面していた。日本では、ほぼ同時期に、問題解決の糸口を見つけるための国際的な比較研究も進められ、英国、米国、ドイツなどの欧米諸国と並び中国も取り上げられた。しかし、同じアジアの国として日本にとって重要な参考対象になる中国のIB導入事情は、中国国内の研究も僅少で、そのわずかな一部が断片的に語られただけであった。グローバル的に活躍する人材を養成するためとはいえ、だれが、何のためにIBを求めたのか。そして、いったいどうして比較的スピーディに拡大することができたのか。その全容を描き出し中国でのIB導入の性質を明らかにするため、この研究を始めたのである。

2. 研究の目的

教育のグローバル化の深化とともに、日本と中国の両国において、国際バカロレア (IB) の公立高校への導入が図られ、その中で、教員の確保から現存する教育システムとの調和まで、両国の直面する政策的・実践的課題に共通するものが多い。これらの数々の課題をクリアする前に、導入の実態を描き出す必要があった。まずは、どのような公立校がDP導入校として選ばれるのか、あるいは進んで導入しようとしたのか。DP課程がどの言語で教授され、本国のカリキュラムとの関係がどうなるのか。さらに教員がどのように選ばれ、その資格が何により規定されるのか。また、国内の卒業資格が付与されるのか、どのような生徒が何のためにDP課程に進み、進路はどうなるのか。このように、まずは一連のIBDP導入に関連する基礎的な問題を明らかにし、そのアウトラインを描く必要があった。次は背景とともに、DP導入の拡大につながる社会的要因を分析し、諸要因間の関係性を明確にする必要がある。

本研究は、日本との比較を念頭に置きながら、中国におけるディプロマ・プログラム (DP) の公立高校への導入を中心に、以下の3つに分けて分析を進める。

- (1) IBDP導入に関する政策的規定及び導入校の法的位置を明らかにする。
- (2) 導入の実施過程に関わる社会的・市場的要因に関する分析を行う。
- (3) 導入枠組みを解明する。

それにより、公立高校へのIBDP導入の直面する課題の解決を学術的に寄与する。

3. 研究の方法

主に以下の3つの方法を使い、研究を進めた。

- (1) 資料による分析。IBに関連する中国と日本の資料を収集し、解読する。

(2) 現地導入校及び研究機関を対象とする現地調査。東北、北京、上海、南京、広州、成都など当時IB導入校のあるほぼすべての地域を回り、担当者や教員、生徒にそれぞれ導入過程や担当科目と進路指導、学習の様子及び卒業後の進路に関するインタビュー調査を実施した。

(3) 国際フォーラムへの参加。中国で開催されるIBフォーラムと教育エージェントにより主催されるフォーラムに参加し、IB導入に関する最新動向を把握しようとした。

4. 研究成果

研究成果は以下のとおりである。

(1) 公立IBDP校の全国的状況の把握と導入類型の分類。IB導入においては、中国には国レベルの規定がなく、地方が中央からの関連通達と社会的ニーズとの兼ね合いで推進と制限の間に揺れながら、それぞれ拡大の方法を模索する状態にある。そのため、中国国内にも全貌を描き出す研究が皆無であったと言ってよい。生徒の国籍による分類以外、学校が独力で進めてきたのか、教育エージェントとの共同運営で実施するのか、全体を整理し分類した。

(2) IB導入の目的について分析した。DP導入校のホームページを見ると、これからはグローバルな見識を持ち、グローバルな能力を有する人材の養成が目標として打ち出されていたが、教授言語、教員の構成、卒業後の進路を分析した結果、欧米有名校への進学が現実的な目標となっていたと思われる。つまり、中国語と体育や芸術以外、ほぼすべての科目の授業用語が英語であり、教員も英語を母語とするメンバーが大半である。進路に関して言えば、極まれにシンガポールや香港、日本の大学に進学する卒業生もいるが、ほぼ全員が欧米の大学を目指す。

(3) 中国でのIB導入には教育エージェントが大きな役割を果たしたことを明らかにした。欧米の教育と異なるシステムを有する中国にIBを導入するのに、実践的に多くの困難を伴う。実

施可能にするために、外国人教員を募集、研修及び管理する教育エージェントが教材と教育方法とともに、セットで IB パッケージを導入校に提供する。それをなくして中国の IB 導入拡大がないと言っても過言ではない。

(4) 香港や日本と比較した場合、国の政策よりも市場に敏感に反応するのは中国の特徴であり、社会的なニーズに応じ外国人教員を引きつける条件を出すという市場メカニズムが IB 導入の過程に強く働くという結論に至った。

以上の研究成果が書籍、論文、そして学会発表の形で日本や香港、台湾及び韓国で発表された。これらの成果を日本を対象とする研究に生かし、問題解決に学術的に寄与することが課題である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 岩崎久美子	4. 巻 2018年7月号
2. 論文標題 教育におけるエビデンスとは	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『体育科教育』	6. 最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 趙健、呉偉、岩崎久美子	4. 巻 341号
2. 論文標題 日本国際文凭（IB）教育的発展歷程与政策選択	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『外国教育研究』	6. 最初と最後の頁 99-111
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 岩崎久美子	4. 巻 402
2. 論文標題 国際バカロレアの今後の展開	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 文部科学教育通信	6. 最初と最後の頁 18, 19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 3件/うち国際学会 7件）

1. 発表者名 黄丹青
2. 発表標題 本土学校導入IBDP之中日比較 — 从升学看制度組織的差異
3. 学会等名 香港比較教育学会2019年大会（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 黄丹青
2. 発表標題 Comparative Studies in the Expansion of International Baccalaureate Diploma Program of Japan and China: the Police and the Organization Against the social needs, and the Educational Agency
3. 学会等名 第25回台湾教育社会学会大会 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大和洋子
2. 発表標題 「全ての生徒に公教育において6年間の無償中等教育を保障する香港の新教育制度－教育課程に焦点をあてて－」
3. 学会等名 アジア教育学会第13回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Choi Tae Hee、大和洋子
2. 発表標題 . Public private partnership in English education: The Governance and Its Shaping factors in Hong Kong and Japan
3. 学会等名 香港比較教育学会2019年大会 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 黄丹青、大和洋子
2. 発表標題 Comparative study on the expansion of IBDP in China, Japan, and Hong Kong: With focus on educational policies and social factors
3. 学会等名 Comparative Education Society of HongKong (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 黄丹青
2. 発表標題 IBと大学入試制度の改革－IBの日本における本土化を中心に
3. 学会等名 「多元視角下的IB課程対話」フォーラム（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 岩崎久美子
2. 発表標題 公立学校への国際バカロレア導入：日本と諸外国の動き
3. 学会等名 「多元視角下的IB課程対話」フォーラム（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大和洋子
2. 発表標題 IB教育と東アジアの伝統的教育
3. 学会等名 「多元視角下的IB課程対話」フォーラム（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 岩崎久美子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 768-769
3. 書名 「国際バカロレア」『教育社会学事典』	

1. 著者名 岩崎久美子、黄丹青、大和洋子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ジアース教育新社	5. 総ページ数 152
3. 書名 『国際バカロレアの現在』	

1. 著者名 岩崎久美子、黄丹青、大和洋子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 430
3. 書名 『国際バカロレアの挑戦』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>華東師範大学 国際与比較教育研究所 http://iice.ecnu.edu.cn/</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	岩崎 久美子 (IWASAKI Kumiko) (10259989)	放送大学・教養学部・教授 (32508)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	大和 洋子 (YAMATO Yoko) (30724413)	国立教育政策研究所・その他部局など・特別研究員 (62601)	